

研究題目	フーゴー・ヴォルフの書簡研究 — 音楽に対する考え方と創作状況	報告書作成者	梅林郁子
研究従事者	梅林郁子		
研究目的	<p>本研究は、オーストリアの作曲家フーゴー・ヴォルフ Hugo Wolf(1860-1903)の書簡内容から、音楽に対する考え方と創作の関連性を考察するものである。ヴォルフは2217通の書簡を残しているが、特に今回は、1894年から1895年に、彼と親しい付き合いのあった歌手フリーダ・ツェルニー Frieda Zerny(1864-1917)宛ての書簡を内容研究の中心に据え、他の書簡も参照しながら、この時期における彼の音楽全般に対する考え方と変遷を明らかにした上で、作品の分析的考察を行い、総合的に関連を検討する。</p> <p>ヴォルフの書簡は、生誕150年にあたる2010年及び翌2011年に、現時点で判明している全書簡2217通がウィーンのMusikwissenschaftlicher Verlagより、ヴォルフ全集の一環として <i>Hugo Wolf Briefe</i>. 全4巻に集約され出版された。このように、印刷資料として入手できる状態となった書簡であるが、全集出版以前までは資料として扱いにくかったこともあり、現時点では内容研究まで踏み込まれていない。印刷資料が整った今後、楽譜などが含まれている自筆資料(彼はしばしば書簡に自作の楽譜なども書き込んでいる)と併せて研究を進めることで、自作のリートに対する考え、他の作曲家や演奏者に対する批評、そして彼に音楽的な影響を与えた人間関係などを通じて、ヴォルフの音楽に対する関わり方を明らかにできる。またこの研究は、これまで様々な角度から蓄積されてきた作品研究(特にリート研究)とも強く関わり、この種の研究に対しても、その背景について多くの情報を示すことができる。</p> <p>資料研究の先駆けとして、本研究ではツェルニー宛ての書簡を対象とした。ツェルニーは、ヴォルフが1894年の一時期、恋愛関係を持った歌手であり、書簡は1894年2月から1895年8月までに51通が残されている(全自筆稿は、ウィーン図書館 Wienbibliothek im Rathaus に、資料番号 H.I.N.200530 から 2003580 で所蔵されており、本研究助成により、2011年9月16日から28日までウィーン図書館で、調査を行った。【表1】を参照)。ツェルニーと交際し、書簡を交わっていたこの時期のヴォルフは、リート創作において中期と後期の狭間でスランプに陥っていたことから、ツェルニーは「芸術的な停滞からヴォルフを救い出した点で、ヴォルフの作品において鍵を握る人物」(Ernst Hilmar; Walter Obermaier, hrsg. 1978. <i>Hugo Wolf Briefe an Frieda Zerny</i>. Wien: Musikwissenschaftlicher Verlag. p.3)と評価されている。特にツェルニーは音楽関係者であったことから、彼女への書簡はラブレターであるだけでなく、音楽的にも多くの内容が含まれた、貴重な資料と考えられる。この資料は研究の過程で邦訳するので、研究後は広く音楽研究者や演奏者などが使用できる形として提供したい。</p> <p>また、本研究では、中期と後期に跨って作曲した《イタリア歌曲集 <i>Italienisches Liederbuch</i>》の《第I集》と《第II集》を考察し、書簡研究に基づいて、作曲技法の変化についても総合的に検討する。</p>		

## 研究内容

**1. ツェルニー宛 1894年2月から6月までの書簡研究**（本研究は、梅林郁子. 2012. 「フーゴ・ヴォルフの書簡研究 — フリーダ・ツェルニー宛 1894年2月から6月まで」『鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編』第62巻. pp.59-73として発表した）

1894年1月から始まったヴォルフとツェルニーの恋愛関係は、6月にヴォルフの心変わりで終わるが、この間、ヴォルフからツェルニーには30通の書簡が送られた。これらの書簡における音楽に関する記述は、(1)ヴォルフの演奏活動、(2)ツェルニーの演奏活動、(3)ヴォルフの創作活動の三種類に分類され、特に二人の演奏活動についてが、主要な関心事となっている。

当時ヴォルフは、若く将来への希望に満ちた作曲者であったが、書簡には既に、音楽的・経済的な実力者たちの名が多数挙がり、ヴォルフが彼らを味方につけ、次第に知名度を上げ始めたことがわかる。このようななか、ヴォルフの側では、ツェルニーが歌う自作リート演奏会で、ピアノ伴奏を受け持つことは、積極的に演奏活動に取り組む要因となった。また、ツェルニーもコンサート出演以外に、ヴォルフから舞台歌手のきっかけとなる仕事の斡旋なども受けており、二人は演奏活動において、音楽的な影響を与え合ったと考えられる。一方、この時期の書簡には楽譜の断片も含まれるが、作曲活動において、この恋愛が直接には集中的な創作に繋がることはなかった。

**2. ツェルニー宛 1894年7月から1895年8月までの書簡研究**

恋愛関係終了後も、1895年8月まで、21通の書簡が残されている。音楽に関する記述は、前述の(2)と(3)が大半である。

1894年6月に一方的に恋愛関係を解消した後、ヴォルフは二度とツェルニーと会うことはなかった。別れた当初のヴォルフは、ツェルニーだけでなく、彼女と音楽的な関係にある他の演奏者や作曲者に対しても、皮肉っぽい言葉を連ねているが、やがて彼女が成功の道を歩み始めると、書簡には、成功に対する祝福と寂しさが表れるようになった。その結果、ヴォルフは1895年初めから再び、創作活動に情熱を傾け始め、これは唯一のオペラ作品《お代官様 *Der Corregidor*》に結実したことから、この時期の書簡には《お代官様》創作に関する考えが随所に見られる。さらにこの流れは、1896年からの後期のリート創作期へ繋がる原動力ともなったのである。

**3. 《イタリア歌曲集》研究 — ピアノ・パートを中心とした《第Ⅰ集》と《第Ⅱ集》の比較**（本研究は、現在、論文として投稿中）

ヴォルフは1891年に《イタリア歌曲集》の《第Ⅰ集》を作曲した。しかし、その後スランプに陥ってリートから離れ、以前に作曲した弦楽四重奏曲を管弦楽曲《イタリアのセレナーデ *Italienische Serenade*》として編曲し、さらに複数楽章化して交響曲にしようと奮闘していたが、作品としては成立しなかった（【図1】はツェルニー宛書簡に記された、未完の第3楽章のモチーフ断片）。やがて、ツェルニーとの恋愛が終わり、《お代官様》に取り組んで、再び作曲への活路を開き、1896年には《第Ⅱ集》を続きとして作曲し始めた。しかし、この間の音楽的経験、特に《イタリアのセレナーデ》の作・編曲によって、彼の作曲技法は歌唱パート、ピアノ・パート共に大きく変化したのである。

研究のポイント	<p><b>(1) ヴォルフの音楽に対する考え方や創作状況を、文書資料から考察する研究に先鞭をつけることができた</b></p> <p>今回、ヴォルフの書簡内容研究に取り組んだことで、彼の音楽に対する考え方などを、文書資料から考察する研究に先鞭をつけた。特に今回は、リート創作における中期と後期の間に親密な付き合いのあったツェルニーの書簡を対象としたことで、ヴォルフがスランプから再び作曲に取り掛かるまでの経緯を明らかにし、また、後期のリート創作に繋がる、オペラ《お代官様》の作曲状況も、詳細を検討できた。</p> <p><b>(2) 書簡内容研究を作品の分析的考察と併せて行うことで、創作状況の背景を検討できた</b></p> <p>ヴォルフ研究は作品(特にリート)研究が中心となっているが、特に今回は、ツェルニーとの交際期間を挟んで作曲された《イタリア歌曲集》の《第Ⅰ集》と《第Ⅱ集》を、書簡における記述も併せて考察することで、両集の相違点を明確にした。またその理由について、書簡の内容や、書簡に含まれている自筆譜も含めて総合的に検討できた。</p>
研究結果	<p>ヴォルフとツェルニーが恋愛関係にあった当時、ヴォルフは作曲のスランプに陥っており、二人は演奏活動においては、相互に音楽的な影響を与え合ったが、ヴォルフの作曲活動は、ツェルニーと別れ、彼女が歌手として成功の道を歩み始めた時から再開した。この作曲に対する意欲は、オペラ《お代官様》を生み出しただけでなく、後期の《イタリア歌曲集》の《第Ⅱ集》などに繋がった。一方、《イタリア歌曲集》の《第Ⅰ集》と《第Ⅱ集》(中期最後と後期最初の作品)を比較すると、その作曲技法は大きく変化しており、それは《第Ⅱ集》における歌唱パートの同音反復減少や、ピアノ・パートの独立したメロディーラインの存在から明らかである。</p> <p>以上より、本研究では、ツェルニー宛書簡より、ヴォルフが中期と後期の間にあったスランプから、ツェルニーとの関係を軸として、再び作曲活動に励むまでの道りを明らかにすることができた。また、この間の作曲・編曲活動により、後期のリートは中期とは明らかに異なる作曲技法を展開しており、その理由についても、書簡研究の内容と併せて示すことができたのである。</p>
今後の課題	<p><b>(1) ツェルニー宛 1894年7月から1895年8月までの書簡研究を公表する</b></p> <p>研究内容の2で挙げた書簡研究については、現在まだ研究成果を公表していないため、発表準備に着手したい。</p> <p><b>(2) 書簡の邦訳を公表する</b></p> <p>ヴォルフの書簡は、これまで断片的な邦訳しか行われていない。今後広く研究や演奏に役立てるため、現在、本研究の資料として作成した邦訳の出版準備を進めており、早急な公表に努力したい。</p> <p><b>(3) ツェルニー宛以外の書簡研究を行う</b></p> <p>ヴォルフの書簡は、現在までに全 2217 通が公にされている。今後さらに友人・恋人・家族・出版社などに宛てた他の書簡を研究することで、楽曲の分析的考察と併せ、総合的なヴォルフ研究を進めることができると考えている。</p>

【表1】ツェルニー宛書簡一覧(記載年月日順)

資料番号	年月日	記載地名	資料番号	年月日	記載地名		
1	H.I.N.200330	1894. 2.27	シュトゥットガルト	27	H.I.N.200371	1894. 6. 1	ウィーン
2	H.I.N.200372	1894. 2.27	シュトゥットガルト	28	H.I.N.200355	1894. 6. 5	ウィーン
3	H.I.N.200331	1894. 3. 1	ウィーン	29	H.I.N.200356	1894. 6. 8	ウィーン
4	H.I.N.200332	1894. 3. 3	ウィーン	30	H.I.N.200357	1894. 6.21	ウィーン
5	H.I.N.200333	1894. 3. 3	ウィーン	31	H.I.N.200358	1894.6.26	ウィーン
6	H.I.N.200334	1894. 3. 4	ウィーン	32	H.I.N.200359	1894. 7. 6	ウィーン
7	H.I.N.200335	1894. 3. 7	デーブリク	33	H.I.N.200360	1894. 7.16	ウィーン
8	H.I.N.200336	1894. 3. 8	ウィーン	34	H.I.N.200361	1894. 7.29	ウィーン
9	H.I.N.200337	1894. 3.10	ウィーン	35	H.I.N.200362	1894. 8. 2	トラウンキルヒェン
10	H.I.N.200338	1894. 3.12	ウィーン	36	H.I.N.200363	1894. 8.17	トラウンキルヒェン
11	H.I.N.200339	1894. 3.14	ウィーン	37	H.I.N.200364	1894. 8.22	トラウンキルヒェン
12	H.I.N.200340	1894. 3.17	ウィーン	38	H.I.N.200365	1894. 8.30	トラウンキルヒェン
13	H.I.N.200341	1894. 3.19	ウィーン	39	H.I.N.200366	1894. 9. 6	マッツェン城
14	H.I.N.200342	1894. 3.20	ウィーン	40	H.I.N.200367	1894. 9.29	マッツェン城
15	H.I.N.200343	1894. 4.21	ウィーン	41	H.I.N.200368	1894.10.10	マッツェン城
16	H.I.N.200344	1894. 4.24	ウィーン	42	H.I.N.200369	1894.11. 5	ベルヒトルツドルフ
17	H.I.N.200345	1894. 4.29	ウィーン	43	H.I.N.200370	1894.12.30	ウィーン
18	H.I.N.200346	1894. 5. 3	ウィーン	44	H.I.N.200373	1895. 1.17	ウィーン
19	H.I.N.200347	1894. 5. 7	ウィーン	45	H.I.N.200374	1895. 2. 8	ウィーン
20	H.I.N.200348	1894. 5.10	ウィーン	46	H.I.N.200375	1895. 3. 3	ウィーン
21	H.I.N.200351	1894. 5.14	ウィーン	47	H.I.N.200376	1895. 4. 5	ベルヒトルツドルフ
22	H.I.N.200349	1894. 5.18	ウィーン	48	H.I.N.200377	1895. 5.24	マッツェン城
23	H.I.N.200350	1894. 5.22	ウィーン	49	H.I.N.200378	1895. 6.21	マッツェン城
24	H.I.N.200352	1894. 5.25	ウィーン	50	H.I.N.200379	1895. 7.17	マッツェン城
25	H.I.N.200353	1894. 5.26	ウィーン	51	H.I.N.200380	1895. 8. 7	マッツェン城
26	H.I.N.200354	1894. 5.29	ウィーン				

【図1】管弦楽曲《イタリアのセレナーデ》第3楽章のモチーフ断片

(H.I.N.200338 ツェルニー宛 1894年3月12日の書簡より)



(注:写真, データ, グラフ等 研究内容の補足説明にご使用下さい。)